

映画『見えない娘 THE INVISIBLES』が 第30回プチョン国際ファンタスティック映画祭にて Children's Fantastic Choice Awardを受賞



CHOCOLATE Inc.（本社：東京都渋谷区、代表取締役：渡辺裕介）は、企画・制作を手がける映画『見えない娘 THE INVISIBLES』（監督：竹林亮、脚本：夏生さえり）が、7月2日より韓国・富川（プチョン）で開催されている「第30回プチョン国際ファンタスティック映画祭（BIFAN）」において、子ども審査員によって選出される「Children's Fantastic Choice Award」を受賞したことをお知らせいたします。本賞は、富川市の子どもたちで構成される審査員チームが、ファミリー向けジャンルの全作品の中から最優秀作品を選出するもので、現地時間の7月9日に監督の竹林亮、プロデューサーの福田文香が授賞式に登壇しました。

毎熊克哉さん主演『見えない娘 THE INVISIBLES』は、「透明人間」を題材に普遍的な親子の葛藤を描いた作品で、8月28日より全国公開を予定しています。

■「第30回プチョン国際ファンタスティック映画祭」受賞内容・上映概要

作品タイトル：見えない娘 THE INVISIBLES（英：THE INVISIBLES）

受賞：Children's Fantastic Choice Award

上映部門：Fanta-scape

上映日：7月5日（日）※ワールドプレミア、7月10日（金）、7月11日（土）

映画『見えない娘 THE INVISIBLES』受賞内容

今年で30周年を迎えたアジア最大級の映画祭「プジョン国際ファンタスティック映画祭」において、『見えない娘 THE INVISIBLES』が「Children's Fantastic Choice Award」に選出されました。本賞は、富川市在住の小学校4～6年生で構成された子ども審査員チームが、映画祭期間中にファミリー向けの対象作品を鑑賞し、星点評価や審査を通じて最も高い支持を得た1作品に授与するアワードです。子どもたち独自の視点と想像力で最優秀作品を選ぶ、映画祭の中でもユニークな市民参加型の部門となっています。なお、本年の同映画祭における受賞作品（BIFAN 2026 Features Winners）の中で、日本作品としては唯一の受賞となりました。

<審査員コメント>

この作品は透明人間で生まれたひかりと家族の旅を通して、存在の意味と関係の本質を繊細であたたかく映し出しています。

見えている姿ではなく見えない心でお互いを理解して、つながっていく過程は笑いと感動をこえて深い余韻を残しています。



オープニングセレモニー・ワールドプレミア レポート

7月2日に行われたオープニングセレモニーには、主人公・星野学役を務める毎熊克哉さん、長女・風子役の近藤華さん、次女・音々役の矢山花さんほか、監督の竹林亮、脚本の夏生さえりら制作陣が参加。透明人間である三女・ひかりのアイテム、黄色のスーツケースとともにレッドカーペットを歩きました。7月5日のワールドプレミア上映は、ひかりの居場所を知らせる「I'm here! ボタン」が登場するたびに客席から笑い声上がるなど、会場は終始和やかな雰囲気になりました。上映後には毎熊さん、竹林、夏生の3名が登壇し、舞台挨拶を実施。イベント終了後にはサインや記念撮影を求める長蛇の列ができるなど、作品への高い関心と熱気にあふれたワールドプレミアとなりました。



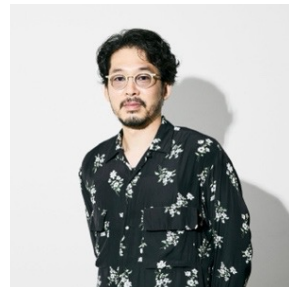
主演 毎熊克哉（星野学役）

韓国の子供たちがこの映画を選んでくれて、目頭が熱くなります。自分にとって子供の頃に観て好きだった映画は大人になっても忘れない一生もので、そこからたくさんの感性を得ました。『見えない娘』もみんなにとってそういう映画になってくれたら嬉しいです。



監督 竹林亮

プチョンでの世界初上映は、とても温かい空気に包まれていて、観客の皆さんの笑い声を聞きながら、同席したスタッフたちと一緒にその貴重な時間を楽しませていただきました。そしてプチョン市の子供も審査員の皆さんから賞をいただけたことは、我々の映画にとって非常に大きな意味があります。とても素敵な映画祭に参加できたことが本当に嬉しいです。



脚本 夏生さえり

人生初のレッドカーペット、人生初の通訳付き舞台挨拶と夢のような体験の連続に続き、夢のような賞までいただき、胸がいっぱいです。ワールドプレミア上映では会場が笑いに包まれていて、前に座っていた少年が父親と目を見合わせて笑っていたあの横顔は、この先も忘れないと思います。創作人生において最大のご褒美を頂いた気持ちです。国を超えて、この映画が届いたことを、光栄に思います。



プチョン国際ファンタスティック映画祭（BIFAN）について

プチョン国際ファンタスティック映画祭は、1997年から韓国の富川市一帯で開催され、今年で30周年を迎えるアジア最大級の映画祭です。釜山国際映画祭（BIFF）、全州国際映画祭

（JIFF）と並んで、韓国を代表する三大映画祭の一つとされています。SF、ファンタジー、ホラー、アクション、サスペンス、スリラーなど、エンタメ性の高い作品が毎年世界中から集まり、上映されています。

公式サイト：<https://www.bifan.kr/>



부천국제판타스틱영화제
BUcheon INTERNATIONAL
FANTASTIC FILM FESTIVAL
2026.7.2—7.12

見えないものがだんだん見えてくる…！？

透明人間と旅に出る新感覚SFムービー！

監督は、ドキュメンタリー映画『14歳の栞』（2021）、『大きな家』（2024）や、社員全員が同じ一週間を繰り返していく劇映画『MONDAYS／このタイムループ、上司に気づかせないと終わらない』（2022）で注目を集めた竹林亮。企画・脚本は、竹林とともにYouTube短編映画『ハロー！ブランニューワールド（動画名：もう限界。無理。逃げ出したい。）』（2019）やりモート演劇「BestFriends.com」（2020）、『MONDAYS』などを手がけ、数々の賞をともに手にした夏生さえりが担当。会社員のくり返される日常をタイムループに落とし込んで表現した『MONDAYS』の制作チームが、透明人間というSF題材を通して、普遍的な親子の葛藤を描く最新作です。

■ ストーリー：

もしも、生まれた娘が透明人間だったら？

とある島で、ひっそりと暮らす父と三姉妹の家族。
この家族には、ちょっと変わった秘密があった。
それは、末娘のひかりが生まれつき“透明人間”であること。

娘たちを朗らかに育てた母親が亡くなった後、
心配性の父は、三姉妹を人目から隠すように暮らしていた。

そんなある日、東京で暮らす大女優の祖母が入院したという知らせが入る。
祖母に、ひかりが透明人間であることを打ち明けられないまま、家族は東京へと出発することに。

■ 基本情報：



タイトル：見えない娘 THE INVISIBLES

全国公開日：2026年8月28日（金）

ムビチケ販売開始日：2026年6月26日（金）

監督：竹林亮 企画・脚本：夏生さえり・竹林亮

出演：毎熊克哉、鈴木凜子、近藤華、矢山花、寺島進、余貴美子、友近、濱田祐太郎、宇野祥平、円井わん、浅沼晋太郎、坂口涼太郎、板尾創路、加藤雅也、映美くらら

主題歌：くるり「ばらの花」

上映時間：110分

企画・制作：CHOCOLATE Inc.

製作：CHOCOLATE Inc.、PARCO、東急エージェンシー

配給：PARCO、CHOCOLATE Inc.

公式サイト：<http://mienaimusume.com/>

公式X：https://x.com/mienai_musume (@mienai_musume)

※本作品に関連した素材をご使用の際は以下のコピーライトの表記をお願いいたします。

©THE INVISIBLES Production Committee